

イオン高の原SC グランドオープン

サティ、関西での再出発

大手流通グループのイオン（千葉県美浜区）は一日、奈良市と京都府木津川市にまたがる大型ショッピングセンター「イオン高の原ショッピングセンター」（木津川市相楽台二丁目）をグランドオープン。河井規子・木津川市長や大木一広・都市再生機構西日本支社関西文化学術研究都市事業本部長らがかけつけた。核店舗の「高の原サティ」は総合スーパーとして県内最大規模で、会社更生手続き終結以降初の関西進出となった。

同SCは、高の原サティと百四十八の専門店から成り、商業施設面積は約五万八千五百平方メートル、地上五階建てのモール型。地上平面駐車場、一、五、屋上階の施設内駐車場合わせて二千台が駐車可能。高の原サティは、店舗面積約一万九千三百平方メートルと県内最大規模で、食料品や生活雑貨を強

化し、サティでは初めてファーストフード売り場を設けた。

この日はあいにくの雨模様となったが、地元木津川市の私立愛光保育園の園児四十二人が「ほくらのマーチ」など元気な歌声を披露。

続いて、河井木津川市長や大木事業本部長、イオングループから川本敏雄・マイカル社長や高橋宣久・イオン執行役員SC事業本部長、愛光保育園園児らがテープカットした。また店内でも、地元の太鼓演奏女性グループ「いずみ太鼓・木の鼓」による和太鼓演奏が行われ、グランドオープンを飾った。

雨の影響でそれほど混雑は見られなかったが、サティ開店の午前九時前にはチラシを持った買い物客らが列をつくり、開店と同時に目当ての売り場に詰め掛けた。雨脚が弱まった十一時すぎには、レストランなど専門店が混雑が見られた。

「食品、住生活を強化」

川本・マイカル社長ら会見

イオン高の原ショッピングセンターがグランドオープンした一日、木津川市相楽台二丁目の同センター内でマイカルの川本敏雄社長ら関係者が記者会見した。川本社長は核店舗の「高の原サティ」について「マイカル破たん後に七十数店舗のリニューアルと三十五店舗の閉店の反省の上に立った店舗。お客さまが満足される品ぞろえを目指す」とし、食品や住生活品を中心に強化したことを強調した。また、プレオープン初日は八万人を超える入場があり、交通混雑による混乱は起きていない、という。

会見にはイオンの高橋宣久・執行役員SC事業本部長、森本正三・イオン高の原SCモールマネージャー、坂田卓司・高の原サティ店長らも出席した。

川本社長は「三階食料品売り場について『生鮮食料品も取り入れた』との横に関西で牛肉ブランドとして強い柿安本店を引入り力強くなり、地元のスイーツなども取り入れた」と語った。住生活面ではカー

デンキを重視。平面駐車場と同一階に食料品や日用品とともに、ペット・雑貨などと一緒にカーデンキ売りのスペースを確保した。団塊世代を中心とする富裕層を意識したという。三階の衣料品売り場については「生活シーンに合わせたトータルコーディネート」を基本としているが、マイカルにとってもともと衣料品は強い分野。川本社長は「イオンスタイルとは違うアパレルを進めていく。婦人アパレルの深化はさらにしていく」と述べた。

一方、プレオープンからの状況について高橋執行役員は「交通対策を取り大きな混乱もなくきょうを迎えた。プレオープン初日は八万人を上回る入場者があった。近鉄や奈良交通バスのお帰りの評判がよく、駐車場の利用状況は50%ぐらいため、想定より車を利用するお客さんは少なかった」と語った。



河井規子・木津川市長や地元愛光保育園児らによるテープカット。右端は川本マイカル社長



総合スーパーとモール（商店街）を三層に組み合わせさせたイオン高の原ショッピングセンター。一日、木津川市相楽台二丁目